

総合治水対策協議会 議事録

開催日時：平成25年4月18日(木)14:30～17:00

開催場所：橿原市立かしはら万葉ホール レセプションホール5F

参加自治体：出席24自治体

(奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町)

1. 総合治水対策協議会

(1) 協議会設置運営要領の改訂

奈良県の事務局への位置付けおよび自治体組織改編に伴う運営要領の改訂が了承された。

(2) 「流域対策の推進」についての意見交換

事務局による資料説明後、大和川流域を布留飛鳥圏域・曾我葛城圏域・生駒いかるが平城圏域の3グループに分け、流域対策についてグループ討議を行い、意見発表を行った。意見発表の内容は以下のとおり。

○ 生駒いかるが平城圏域グループ（代表：大和郡山市長）

- ・圏域内の市町村と治水対策の現状について意見交換をした。
- ・ため池の治水利用については、市町村毎に立地条件や構造上の問題、自治会や水利組合への借用問題などが原因で対策がなかなか進まないという事情がある。
- ・ため池の治水利用が困難であれば、貯留施設を整備するなど地域の実情に応じた計画目標の見直しということも視野に入れてはどうか。
- ・また、浸水被害を軽減するためには、支川の改修も重要ではないか。
- ・水田の減少による保水力の低下は都市部の悩みで、急激な河川の増水に繋がっており、豪雨時の上下流市町村の連携や情報交換は非常に重要と考えている。
- ・田原本町で行っている水田貯留については、大和郡山市では研究中である。農林と土木の連携という新たな課題もあるが、今後の有効な対策として検討していきたい。
- ・最後に、大和郡山市では各家庭が雨水タンクを設置する際に補助を行っている。一つ一つは小さな取り組みかもしれないが、広域的に取り組んでこそ意味があるものであり、流域全体の取り組みに広がってほしいと思っている。

○ 布留飛鳥圏域グループ（代表：天理市長）

- ・当流域は、雨水が東の方から流れてくるが、下流の市町村ほど浸水被害が大きい傾向にある。
- ・天理市では天理ダムで洪水調節の効果が現れているものの、市内には浸水の常襲地域が存在している。そのため、天理市としては被害軽減に向け、ため池の治水利用や地下貯水槽の建設を計画している。
- ・最後に、田原本町において実証実験をしている水田貯留等、大和平野の浸水被害がなくなるような取組を研究していきたい。

- 曾我葛城圏域グループ（代表：王寺町長）
 - ・大和川の最下流に位置する王寺町では、洪水対策だけでなく、上流から流れてくるゴミ対策も大変な問題であり、是非とも国・県・市町村で啓発・清掃活動をお願いしたい。
 - ・洪水対策としては、ため池治水や水田貯留など様々な工種について工夫を行い、経費のかからない形で検討していく必要があると考えている。
 - ・また、市町村の財政状況は厳しく、流域対策の補助率の引き上げや起債充当率の改善など財政支援を要望していくことも重要ではないかと考えている。
 - ・今後、浸水被害の軽減に向け、流域全体として流域対策を推進し、各市町村の流域対策の進捗率を上げていただきたい

- その他の意見（田原本町長）
 - ・市町村で現在、問題となっているのは内水処理対策である。
 - ・田原本町にも浸水常襲地域は多数点在しており、ため池治水利用や雨水貯留浸透施設整備などの対策は色々考えているが、地権者との合意の問題や財政状況の悪化など対応に苦慮している。
 - ・そこで、新たな対策として水田貯留を検討し、平成 24 年度から県の協力も得ながら、その実証実験を行っている。
 - ・水田貯留は広く取り組むことで大きな効果がでてくる。治水効果を高めていくためにも田原本町だけではなく流域全体で取り組んで頂きたい。
 - ・また、水田貯留は流域対策としての効果があると考えているが、総合治水対策には位置付けられていない。水田貯留を流域全体の取り組みに広げていくためにも、総合治水の流域対策として位置づけることを提案させて頂く。

○ 総括（奈良県知事）

- ・総合治水対策の実情を認識し、情報を共有していくことが本日の会議の大きな目的であった。色々意見を頂き、有難く思う。是非、治水対策は流域全体で総合的に取り組む必要があるということを前提に対策を進めて頂きたい。
- ・ため池の治水利用について、整備目標に対して、対策が全く進んでいない市町村もある。対策が進まない事情については研究したいと思うが、対策を進めていくことが重要である。大滝ダムができて水が余るようになっており、ため池が埋め立てられてしまう前に治水利用への転換を促していくことをお願いしたい。
- ・なお、整備目標については、対策が進まないから見直すということではなく、当時の合意の根拠を調べて説明していきたいと考えている。
- ・また、田原本町で取り組んでいる水田貯留については、水田を治水目的に使うというもので、県の方でも平成25年度から補助を行っているので活用をお願いしたい。
- ・河川改修については、県の方でもしっかり進めていく必要があると考えており、支川の堆積土砂撤去は県の河川改修の対象として充実させていきたい。
- ・今後、ため池の治水工事の工夫や内水はん濫のメカニズムなど総合治水対策の進捗に役立つような情報の提供を行っていききたいと考えているので、各市町村におかれては、流域全体のことを考えて流域対策など必要な対策を進めて頂きたい。

○ 総括（近畿地方整備局長）

- ・このような意見交換の場を持たせたことを、ご提案頂いた奈良県知事に感謝したいと思う。対策の進捗率が総合治水対策への情熱や財政的な事情だけでなく、対策工事のやりやすさ等もあるという共通の理解ができたと思う。
- ・水田貯留については、水田の面積は広く有効ではと考えているが、農家や土地改良区等の協力が不可欠であり、土地が水田でなければ意味が無く、土地利用の制限等の問題も出てくる。田原本町さんでの実態を踏まえながら、今後検討していければと思う。
- ・また、流域対策は、どうしても市町村単位での評価になりがちになってしまうが、流出抑制・浸水対策であるので、流域での対策の評価を行っていけば、進捗が期待でき、効率的に総合治水対策を推進できると考えている。

2. 講演会

「日本文明と水ー奈良の誕生から未来へー」という演目で(財)リバーフロント研究所 代表理事 竹村公太郎氏による講演会を実施した。

以上